

実態調査(ウェブアンケート)案

< 心理職対象 >

このアンケートでの「犯罪被害者」とは、面接時等において本人からの訴えや紹介によって「犯罪の被害を受けた」とあなたが判断した人を指します。その方が当該被害に関して警察に届出をしているかどうかや、あなたが実際にその方が何らかの犯罪被害に遭った事実を確認しているかどうかは問いません。また、この調査の対象としている犯罪被害者は、精神的な不調の原因が主として犯罪被害による場合に限定しています。なお、本調査には、犯罪の被害を受けた方の御家族や友人は含まれません。

このアンケートでの「心理療法」「カウンセリング」とは、あなたが直接クライアントの方と面会して行うものを念頭に置いていません。電話相談や、心理テストのテスターとしてのみ患者の方と面接する場合は回答対象に含まれません。

今回の調査は、犯罪被害者の方が受けている心理療法・カウンセリングの実態を把握するためのものですので、薬物療法についての質問は含まれておりません。この点御理解いただければと思います。

はじめにあなたご自身のことについてお聞きます。

問1	あなたの性別をお答えください。
----	-----------------

- 1 男性
- 2 女性

問2	あなたの年齢についてお答えください。
----	--------------------

- 1 20代
- 2 30代
- 3 40代
- 4 50代
- 5 60代以上

問3	あなたの専門資格をお答えください。(重複回答可)
----	--------------------------

- 1 臨床心理士
- 2 精神保健福祉士
- 3 看護師・保健師
- 4 その他(内容:)

問4	あなたの専門職としての臨床経験年数をお答えください。
----	----------------------------

- 1 5年未満
- 2 5～9年
- 3 10～14年
- 4 15～19年
- 5 20年以上

問5	あなたはこれまで犯罪被害者に対して心理療法やカウンセリングを実施した経験がありますか。(保険診療、自由診療、相談面接を問いません。ただし、資格取得前の指導下での研修や実習は含みません。)
----	--

- 1 はい 問6以下の質問にお進みください。
- 2 いいえ 問14以下の質問にお進みください。

以下の質問は問5で「はい」と答えられた方にお聞きます。

問6	あなたがこれまで心理療法やカウンセリングを実施したことがある犯罪被害者のクライアントの人数をお答えください。
----	--

- 1 1～9人
- 2 10～19人
- 3 20人以上

問7	この半年(平成26年1月1日から今まで)に、医療機関・相談機関等で、あなた自身が心理療法やカウンセリングを実施した犯罪被害者のクライアントの実人数をお答えください。 「0人」と答えた方は問10にお進みください。
----	--

(人数を入力)

問8	この半年(平成26年1月1日から今まで)に、医療機関・相談機関等で、あなた自身が心理療法やカウンセリングを実施した犯罪被害者のクライアントの実人数を犯罪種類別にお答えください。
----	--

- 1 性犯罪(強姦、強制わいせつなど)
(0人・1～9人・10人以上 から選択)
- 2 生命・身体を脅かす犯罪(殺人未遂、傷害、強盗致傷など(性犯罪に関連するものは1で答えてください))
(0人・1～9人・10人以上 から選択)
- 3 その他の犯罪
(0人・1～9人・10人以上 から選択)

問9	前問(問8)で答えられたクライアントの面接形態別の人数、自由診療分の1回の平均面接時間、面接料、主に実施している療法についてお答えください。
----	--

- 1 医療機関での保険診療(診療補助者)として心理面接実施
(人数)(主に実施している療法)
- 2 医療機関での自由診療(診療補助者)として心理面接実施
(人数)(平均面接時間/回)(面接料/回)(初回面接料)(主に実施している療法)
- 3 心理相談室等で心理面接実施(メンタル科医療機関の併診あり)
(人数)(平均面接時間/回)(面接料/回)(初回面接料)(主に実施している療法)
- 4 心理相談室等で心理面接実施(メンタル科医療機関の併診なし)
(人数)(平均面接時間/回)(面接料/回)(初回面接料)(主に実施している療法)
- 5 公的助成を受けた相談機関等(民間被害者支援団体等)で心理面接実施
(人数)(平均面接時間/回)(面接料/回)(初回面接料)(主に実施している療法)
(人数:0人・1～9人・10人以上 から選択)
(主として実施している療法: 支持的精神療法・長時間曝露療法(PE)・トラウマフォーカスト認知行動療法(TF-CBT)・認知処理療法(CPT)・眼球運動による脱感作と再処理法(EMDR)・その他の技法 から選択)

問10	犯罪被害者のクライアントに保険診療外での有料心理面接を行った場合の平均的な面接頻度についてお答えください。
-----	---

- 1 初回相談後3ヵ月まで
(週1回・月2回・月1回・月1回未満 から選択)
- 2 初回相談後4ヵ月以降6ヵ月まで
(週1回・月2回・月1回・月1回未満 から選択)
- 3 初回相談後7ヵ月以降1年まで
(週1回・月2回・月1回・月1回未満 から選択)
- 4 これまで保険診療外での有料心理面接の実施経験はない

問11	この半年(平成26年1月1日から今まで)に、あなたが犯罪被害者のクライアントの心理療法・カウンセリングを実施していた職場をすべてお答えください。(重複回答可) (保険診療、自由診療、相談面接を問いません。)
-----	--

- 1 診療所・クリニック
- 2 大学病院
- 3 大学病院以外の総合病院
- 4 精神科病院
- 5 精神保健福祉センター・保健所等
- 6 企業等の健康管理室
- 7 独立した心理相談室・カウンセリングルーム
- 8 民間被害者支援団体
- 9 児童相談所等
- 10 その他の職場
- 11 上記の期間内には該当する職場はなし。 問13以下の質問にお進みください。

問12	この半年(平成26年1月1日から今まで)に、あなたが犯罪被害者のクライアントの心理療法やカウンセリングを実施していた主たる職場が所在する都道府県をお答えください。
-----	---

(都道府県名を選択)

問13	犯罪被害によるPTSDに対してあなたが最も重きを置いて実施している心理治療技法についてお答えください。
-----	---

- 1 長時間曝露療法(PE)
- 2 トラウマフォーカスト認知行動療法(TF-CBT)
- 3 認知処理療法(CPT)
- 4 抑うつ・不安に対する認知行動療法
- 5 1～4以外の認知行動療法
- 6 眼球運動による脱感作と再処理法(EMDR)
- 7 ストレス・マネジメント法
- 8 洞察指向型精神療法(力動的療法など)
- 9 解決指向型精神療法(ブリーフサイコセラピーなど)
- 10 対人関係療法
- 11 芸術療法
- 12 家族療法
- 13 支持的療法
- 14 その他の技法(内容:)

以下の質問は再び全ての方にお聞きます。

問14	あなたはこれまで犯罪被害者の支援や精神的ケアに関する研修や講義を受けたことがありますか。
-----	--

- 1 ある
 - 2 ない
- 問16以下の質問にお進みください。

問15	あなたが参加した研修の内容についてお答えください。
-----	---------------------------

- 1 長時間曝露療法(PE)
- 2 ト라우マフォーカスト認知行動療法(TF-CBT)
- 3 認知処理療法(CPT)
- 4 抑うつ・不安に対する認知行動療法
- 5 1~4以外の認知行動療法
- 6 眼球運動による脱感作と再処理法(EMDR)
- 7 ストレス・マネジメント法
- 8 洞察指向型精神療法(力動的療法など)
- 9 解決指向型精神療法(ブリーフサイコセラピーなど)
- 10 対人関係療法
- 11 芸術療法
- 12 家族療法
- 13 支持的療法
- 14 その他(内容:)

問16	あなたは我が国の犯罪被害給付制度による被害者への給付内容の概要についてご存じですか。
-----	--

- 1 知っている
- 2 よく知らない
- 3 どちらともいえない

問17	あなたがこれまで治療を行った犯罪被害者であるクライアントの方から、心理療法の治療費に関する公的支援制度がないことへの困惑や意見を聞いたことはありますか。
-----	--

- 1 いいえ
- 2 はい

(内容:)

問18	あなたがこれまで治療を行った犯罪被害者であるクライアントの方のうち、心理療法の治療費用がネックとなり、通院をやめたり、本来受けた方がよい治療を受けられなかった方はいらっしゃいましたか。
-----	--

- 1 いいえ
- 2 はい

(内容:)

問19	問17・18でお答えいただいた事項のほか、犯罪被害者に対する経済的支援について、御意見があれば教えてください。
-----	---

(内容:)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。